

# おうち

第11号

2007.9

テーマ「子育てで大切にしたいこと」



表紙絵「おもしろい」 ちさとちゃん（年長）

特集

「子育てで大切にしたいこと」

- ・アンケートの結果
- ・座談会
- ・「子育てで大切にしてきたこと」 幼児教育センター長 石川典枝

子どもと読みたい一冊

「こんにちは あかぎつね！」

掲示板

とちぎの幼・保・小連携

お知らせ

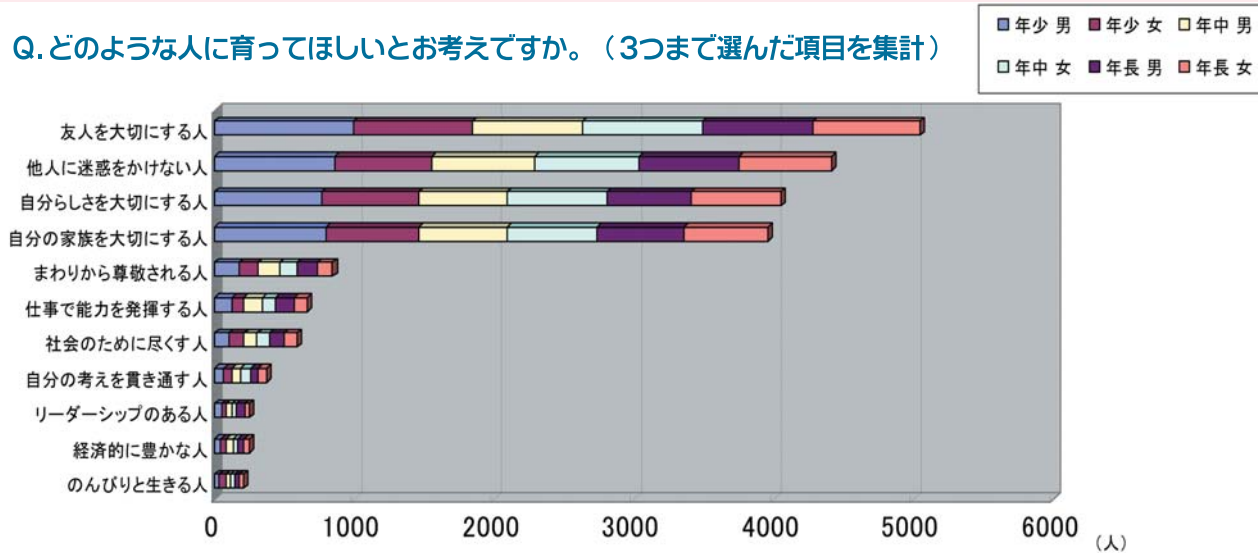
# 特集

# 「子育てで大切にしたいこと」

いろいろな子育て情報があふれている現在、保護者の方は、自分の子どもがどのような人に育ってほしいと願い、どのようなことに力を入れて子育てをしているのでしょうか。

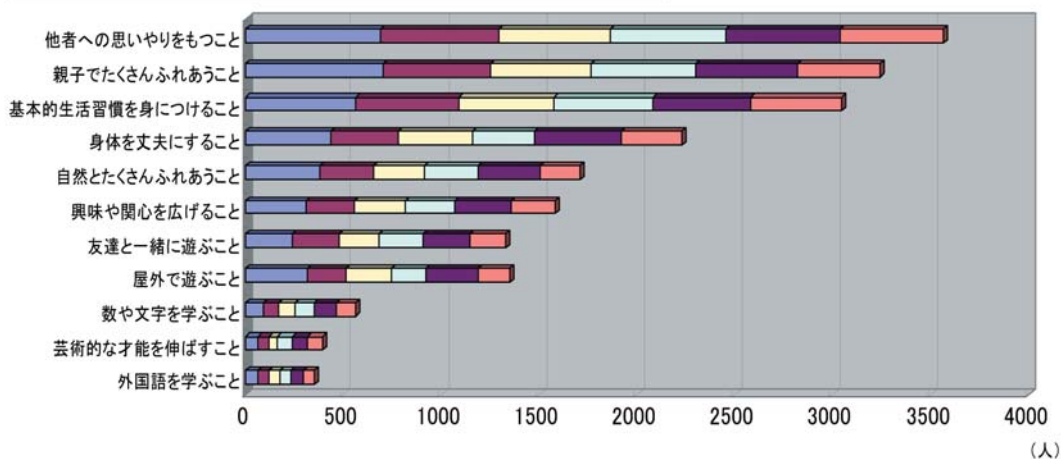
**アンケートの結果** （対象：県内の3～5歳の子をもつ保護者 回答数：6,808件）

Q.どのような人に育ってほしいとお考えですか。（3つまで選んだ項目を集計）



- お子さんの年齢や性別による違いはあまりありませんでした。
- 「友人を大切にする人」「他人に迷惑をかけない人」などの、人とのかかわりを重視する方が多いようです。
- 「自分らしさを大切にする人」「自分の家族を大切にする人」が多いことから、自分や家族を大切にほしいという保護者の願いも見えてきます。

Q.子育てでどのようなことに力を入れていますか。（「とても力を入れている」と回答した項目を集計）



- 「他者への思いやりをもつこと」が最も多く、次に「親子でたくさんふれあうこと」が多く回答されました。「人とのかかわりや家族を大切に」と願う保護者の方の考えが表れています。
- 「基本的な生活習慣を身につけること」「身体を丈夫にすること」を挙げた方も多く、健康で規則正しい生活を心がけている様子が見えます。

アンケートの結果から、日々、願いをもって子育てをする保護者の姿が見えてきます。「自分らしさを大切に」、「友人や家族を大切に」と願う保護者にとって、「思いやりをもつこと」や「たくさんふれあうこと」は子育てのキーワードでしょうか。「人と人との間で生きていくから人間・・・」という言葉思い出します。

アンケートの選択項目では伝えきれない「子育てで力を入れていること」も、たくさん寄せていただきました。

「あなたは宝物」という思いを伝え、自尊感情を育てることで、他人に対する思いやりや優しさを育てたい

しつけは家庭の責任

子どものころにしかできないことを優先させる

早寝早起き

身体づくり・普段の食事が大切

「子は親の鏡」親が気持ちにゆとりをもって、子どもの手本になるように生活する

実際の体験をたくさんする

大人の都合で子どもの時間を奪わない



自分の子だけでなく、ほかの子の個性やよいところを認めてあげるところからはじめたい

兄弟は何人いても、みんなそれぞれ違う

子どもの悩みや考えをきちんと聞いてあげる

子育ては親の生活態度が大切

くじけない・あきらめない・豊かな心を育てる

過保護にしない

自分の都合ではなく、子どもを「待つ」ことができるようになりたい

健康第一  
多少のけがは付き物

子どもを一人の人間として扱うようにし、親が悪いときにはきちんと謝る

多様な子育て論から自分に合ったものを取り入れるようにする

子どもの世界を一緒に楽しむようにしている



アンケートに寄せられた多くの回答から“子育てで大切にしたいこと”が見えてきました。その結果をひまえて、長年にわたって幼児教育に携わり、多くの子どもたちをはぐくんでこられた4人の子育て名人にお話をうかがいました。

★育ってほしい姿に、「友人や家族とのかかわりを大切にしたい人になってほしい」と考えている家庭が多いという結果については、いかがですか？

青木：普段は怒ってばかりいても、アンケートに答えるときには、自分と冷静に向き合えます。この結果を見て、親であれば、我が子に望むことは、昔と何も変わらないということを感じました。今の保護者も「思いやりの心」を大切に思っているんですね。

瀧田：人とのかかわりを重視する保護者が多いということは、自己中心的な考え方の大人が目立ってきた最近の社会に疑問を感じている、とも考えられるわけですね。言葉遣いや生活態度などでも、信じられないような行動を目の当たりにすることがあります。大人になりきれていない保護者がいることも否定できません。

鈴木：今は、家族関係さえ希薄になってきていることから、人との接し方がわからない保護者が増えているように思います。一番悲しいのは、あいさつが返ってこないときですね。そういう親御さんには、「温かい気持ちで接すれば、相手も必ず同じような気持ちになる」ということをわかってもらえるように言葉をかけ続けます。

照内：私も同感です。長い間たくさんのお子さんをお預かりしてきましたが、友人や家族はもちろん、人とのかかわりには、何より「あいさつ」が大切です。「子育て＝あいさつ」と言ってもいいくらい。特に「ありがとう」がね。

★大きくなってからも友達や家族を大切にすることは、どんな幼少期を過ごしたのでしょうか？

青木：肉親からはぐくまれるものはもちろんですが、子ども同士のやり取りの中で育ったものも大きいのでは。双方がうまくかみ合っていたのだと思います。

瀧田：車の両輪と一緒にですね。どちらか一方では、だめと言うことです。子ども同士といえば、昔は、ガキ大将を中心に自然とルールを身に付けましたよ。自分たちにしか通じないようなルールがあって、例えば、小さい子は“アブラムシ”と呼ばれながらも年上から守られていたことなど。理屈ではなく、経験から多くのことを学んでいたと思います。

鈴木：子どもたちは、おもちゃの取り合い一つでも、その中で力の加減や悔しいとか悲しいという感情、上下関係を学んでいるんですね。言葉の出ない年齢の子は、特にこういう経験が大切。でも、最近は親が介入しすぎることもしばしばです。子どもの貴重な成長過程なんですけど・・・。

照内：そう。“けんか”もふれあいなんです。私にも孫がいますが、毎日女の子3人で“姉妹げんか”です。私は、頼もしくゆっくり眺めています。時折始まる取っ組み合いも、子ども同士のスキンシップのひとつという感じです。

青木：ガキ大将を中心とした子どもの世界がなくなりつつある現代は、保育所や幼稚園、地域の活動などで大人が意図的にそういう場を設定する時代なのかもしれませんね。

照内 カツ子



2人のお子さんを育てながら、30年近く子育てサポーターとして働くおかあさんを応援。現在も書道教室の子どもたちから「おばちゃん」と慕われている。

青木 正子



栃木県幼児教育センター顧問。宇都宮市のゆたか幼稚園教諭、園長を経て、前河内町教育委員長を務める等、長年にわたり様々な立場で教育現場に携わる。

★では、大人は、どんなかわりをする  
ことが大切ですか？

照内：私は、祖母という立場で息子夫婦や孫を守るために、必要とされたときにはいくらでも助けてあげるといふ気持ちでいます。やはり、我が子や孫への愛情ですね。

瀧田：祖父母というのは、温かくて心強い存在ですね。それから、なんと言っても子どもの前では、おとうさんとおかあさんは、仲よしているべきです。夫婦円満は、子どもにとって何より安心ですよ。

鈴木：私は、子どもへの言葉かけが大切だと思います。命令や禁止、皮肉のようなマイナスの言葉ばかりだと、子どもをだめにします。親だけでなく私たち大人が、優しさや温かさのあるプラスの言葉をかけてあげる。難しいことではなく、感謝の気持ちを素直に「ありがとう」という言葉で表す、そういうことでいいんです。

照内：そうそう、昔は、保育所や幼稚園の先生にも子どもを預かっていただいて、ありがたいという気持ちでいっぱいでした。だから、自然と「ありがとう」という言葉がこぼれましたね。

鈴木：今でも、そういううれしい言葉で気持ちを伝えてくれる保護者がいます。「ああ、やっていてよかったな。」と心から思います。不思議と一日の疲れも、すっと消えてしまうんです。こういうやり取りの中で育った子は、自ずと優しい子になりますよ。

青木：やはり、今も昔も思いやりのある保護者がたくさんいるということですね。子育てに夢中になり余裕のない中でも、ときどき、冷静になって我が子を見つめ、「この子の素晴らしい所はどこかな？」と考えてほしい。枠に当てはめず他の子とは違うその子らしさをね。

照内：まさに、金子みすゞの詩の「みんなちがってみんないい」ですね。



鈴木 喜佐子



栃木県幼児教育センター  
幼児教育専門員。矢板市の  
公立保育所に保育士、  
所長として勤務し、保育  
一筋40年。たくさんの  
乳幼児と保護者にかかわ  
った保育のプロ。

★最後に、子育て奮闘中の保護者の方々にエールを！

鈴木：子育てに“完全”はありません。だから、あせらず、ゆっくり、そして考えながら子育てしてください。未来ある子どもたちのために頑張ってください。応援しています！

青木：物事の善悪を家庭で伝えましょう。家族全員で共通のこととして、みんなで同じことを伝え、みんなで子どもをはぐくむ。そして何よりも、子どもは立派な一人の人間であることを、大人がわかってあげてください。

照内：子宝に恵まれ、愛しい命を育てることがどんなに素晴らしいことかを感じてください。子どもによって親は鍛えられるんです。一人で悩まないでくださいね。応援してくれる人はたくさんいます。SMILE！ SMILE！ SMILE！ おかあさんの笑顔は、とっても素敵ですよ。

瀧田：一言！子育てを楽しんでください。

座談会を終えて・・・

4人の子育て名人による座談会は、とんとん拍子に進みました。変わってしまったかのように見える昨今の子育てですが、実は、本当に大切なことは変わらないようですね。

こんなに頼りになる経験豊かな子育て名人が、みなさんの周囲にも必ずいるはずですよ。それは、祖父母だったり、近所のおじさん、おばさんだったり、幼稚園・保育所の先生だったり……。思い切って“あいさつ”してみてください。きっと、強力なサポーターを得て、子育てを楽しめるようになるのではないのでしょうか？

子育て名人のみなさん、心強いエールをありがとうございました。

〔カット／あらい はるき ちゃん (年中)〕

瀧田 守




栃木県幼児教育センター  
幼児教育専門員。祖父の  
開いた大田原市のふたば  
幼稚園と共に育ち、現在  
は、ふたば幼稚園、みは  
ら保育園に携わる。3人  
のお子さんの父親でもあ  
る現役子育て応援団長。

# 子育てで大切にしてきたこと



幼児教育センター長 石川 典枝



保護者の方のアンケートを見せていただきながら、私は、自分の子育てで何を大切にしてきたのだろうと思い出してみました。私の子どもたちは、今は成人し、就職し、それぞれが家庭をもつ年齢になっているので、私の記憶は薄れつつありますが、子どもたちの幼いころのアルバムでもめくりながら、お話しできたらいいなと思います。

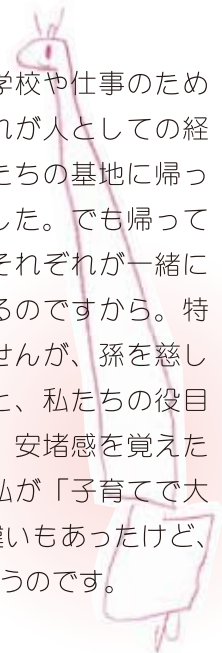
人というのは、なんと欲張りな生物でしょう。おなかの中にいるときの子どもへの願いは、「とにかく無事に生まれてくれれば」でしたが、無事に誕生すると今度は、一人の人間として「かわいい子になってほしい」「頭がいい子になってほしい」「気持ちのやさしい子になってほしい」と期待し、さらに子どもが成長していくと、人間社会の中で「ほかの人とうまくやってくれるようになってほしい」「リーダーシップをとる存在であってほしい」「常に成績上位でいてほしい」などと上乘せしていきます。

私は、産休、育休こそ取りましたが、基本的にはずっと仕事をしていましたので、子どもにかかわれる時間は限られていました。心がけたのは、とにかく時間が短い分、中身の濃いかかわりをすることでした。何冊かの絵本が私を助けてくれました。また、子どもにとって家庭は、何かあったときすぐに逃げ込める安心な基地のような存在であることが望まれるのですが、私ひとりではとても無理なので、夫と義母と一緒に基地を作りました。基地の中には息子の大好きなぬいぐるみや、娘が校庭で拾ってきて、やがて子どもたちの生涯の友となる犬も入って来ました。子どもたちは、ときどき基地に逃げこんでは、つぶれた心を膨らませ、また外へ飛び出してい

ました。

私たちが、基地の中で子どもたちに話してきたのは、「ほかの人への感謝の気持ちを忘れない」と「見ている人がいてもいなくても、してはいけないことはしない」ということぐらいでした。基地の中では、大体において優しく静かな時間が流れました。しかしあるとき、危機に陥ったこともありました。原因は私にありました。私がさらに欲張ったのです。子どもたちに対して、愛情という名のもとに無理な願いをかけたのです。私のDNAを受け継いでいるのですから、突然変異でもない限り、そんなに優秀な人間になるはずはないのに。

親は、ときどき、子どものために思って期待をかけ励ますのだと言いつつ、実は自分が果たせなかった夢を子どもに託してしまうことがあるのです。子どものためではなく、親が自身の自己実現を図ってしまうのです。私も、子どもの絶望と苦悩の表情を見て、初めてそれがわかりました。取り返しのつかないことになるところでした。



時がたち、子どもたちは学校や仕事のために遠く離れ、そしてそれぞれが人としての経験を積んで大人になり、私たちの基地に帰ってくることはまれになりました。でも帰ってくるにはぎやかです。それぞれが一緒に来るメンバーを増やしているのですから。特に偉くも金持ちにもなりません、孫を慈しむ子どもたちの様子を見ると、私たちの役目が終わりに近づいたことに、安堵感を覚えたりもしています。そして、私が「子育てで大切にしてきたこと」は、間違いもあったけど、まあまあだったのかなとも思うのです。

子どもと読みたい

一冊



## 「こんにちは あかぎつね！」

エリック・カール／さの ようこ 偕成社



エリック・カールさんの絵本は、読むだけでなく、ふれる・聞く・見るなど全身を使って楽しめるものがたくさんあります。この本は、“目”と“集中力”を駆使して楽しむお話です。表紙のきつねは緑色なのに、題名が「あかぎつね」なんておかしいですね。どうしてなのでしょう……？

## 掲示板

### 自由意見で 寄せられた声です

早期教育・学習がはやっているようですが、我が子には、本当に好きなことを一つ見つけ、やり通すことの大切さを教えたいです。

給食費を払わない親が増えているというニュースに驚くと同時に、自分の行動を振り返っています。「子は、親の背中を見て育つ」もう一度、日本の規範意識を考えるとときがきているのではないのでしょうか。

子どもにとって、親や兄弟も大切ですが、祖父母の存在も大きいと思います。祖父母とかわる時間をつくり、いつもと違った面から話を聞ける人とのふれあいも大切だと思います。

長女が幼稚園に通っていたころは、子育てに自信がなく、小さなことも気になって仕方ありませんでした。友達とうまくかかわれなかったり、言葉の習得が遅かったりと、悩みの連続でした。

でも、ある担任の先生から「大丈夫、徐々にできるようになるから。おかあさん、あせらないで。」と言われほっとしました。それから、何かができるようになる度に「すごいね。がんばったね。」とほめるようにしてきました。今では、小学校の学習にも興味をもち、生き生きと生活しています。



年齢は重ねても、人として親としてまだまだ未熟で、子どもたちに鍛えられている感じがします。私が変わらなければ、子どもを伸ばしてあげられない！と日々、自分自身と戦っています。

「おうち」は、栃木県教育委員会の幼児教育部門である「幼児教育センター」が、子育てをしている方々へ、子どもについての情報を提供するために発行しています。バックナンバーはホームページで読むことができます。（アドレスは次ページ参照）

また、表紙の絵やカット、子どものつぶやきなどを随時募集しています。

アンケートのお願い

### 次回テーマ「本との出会い」

「秋の夜長の読書」といいますが、子どもたちはいつでも絵本が大好き。

ご家庭でのお子さんと本との出会いをアンケートでお寄せください。

「おうち」は皆さんの声で構成する広報誌です。ぜひ、ご協力ください。

アンケートは幼稚園・保育所にお出しください。直接、幼児教育センターへお出しいただくことも可能です。

# とちぎの幼・保・小連携

## ① 幼・保・小連携ってなあに？

幼児教育センターでは、幼稚園・保育所・小学校の連携（幼・保・小連携）を進めています。

「幼・保・小連携って一体、何のこと？」という方も多いのではないのでしょうか。簡単に言えば、「幼稚園・保育所・小学校の先生たちが協力し合って子どもの育ちを支えよう」という取組です。

ところで、栃木県内に幼稚園・保育所・小学校がどのくらいあると思いますか？

正解は、幼稚園206、保育所342、小学校413です。（平成19年5月現在）そして、5歳児（年長児）の約99パーセントが幼稚園・保育所等（無認可保育施設を含む）に通っており、集団の中での生活を経験しています。

このように、小学校入学時には、それぞれの集団で経験を重ねてきた子どもたちが一緒になり、授業を中心とした小学校での生活をするようになります。

一方、少子化や核家族化、保護者の価値観の多様化など社会の変化により、幼稚園・保育所・小学校での子どもたちの様子も変わってきています。

その中で、子どもたちがよりよく育っていくために、今まで以上に幼児期と学童期のつながりを

強く意識した保育・教育をしていこうという取組が「幼・保・小連携」です。

主に3～5歳の子どもと小学校1・2年生を対象に連携を図っています。保育や授業の中で、どんな生活や経験をしているのか、幼児期の経験がどう小学校につながるのか、一人一人の経験を生かしていくために何をするか、などを幼稚園・保育所・小学校の先生方が一緒に考えています。

幼児教育センターでは、連携を進めるためにいろいろな取組を行っています。この家庭教育広報誌「おうち」を幼稚園・保育所・小学校の先生方にも配布し、子ども理解に役立てていただいていることも、その一つです。

次回から、幼児教育センターのいくつかの具体的な取組をご紹介します。



### お知らせ

#### 家庭教育ホットライン（保護者専用）

保護者の皆さん！お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか？

秘密は絶対に守ります！一人で悩まず気軽に御相談ください！

TEL 028 (665) 7867

受付時間 毎日午前8時30分から午後9時30分まで

【午後9時30分～午前8時30分までは留守番電話・FAX（電話番号と同じ）で対応】  
栃木県教育委員会



#### とちぎテレビ番組「とちぎ教育新事情」の御案内

「おうち」第11号に関するテレビ番組を下記のように放映しますのでご覧ください。

日時：平成19年11月18日（日）10：10～10：30

再放送：平成19年11月19日（月）12：05～12：25

内容：「子育てで大切にしたいこと」

#### 家庭教育広報誌「おうち」第11号

平成19年9月発行

発行者 栃木県幼児教育センター

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215

FAX 028-665-7216

URL : <http://www.tochigi-c.ed.jp/youji/>

e-mail : [youkyou@tochigi-c.ed.jp](mailto:youkyou@tochigi-c.ed.jp)